

成人看護援助論

必修 開講年次：2年次前期 科目区分：講義 単位：1単位 講義時間：30時間

■**科目のねらい**：健康障害の病態と治療を理解し、健康障害を抱える成人期にある対象を身体的・心理的・社会的な側面から分析し、その対象を全体的に理解する。また、解決すべき問題の優先順位を明確にし、病期に応じた看護援助方法を学び、原理原則を踏まえた援助計画を立案する。これら一連の看護過程について科学的知識を活用しながら論理的に推論し記述する。

■**到達目標**：①疾病や治療を理解し、成人期にある対象の周手術期・急性期・回復期・慢性期に必要な看護援助方法を説明できる。
②健康障害を有する対象とその家族の心理・社会的側面に対する援助方法を説明できる。
③看護過程展開力を適切に自己評価できる。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎藤井 瑞恵・小田 和美・貝谷 敏子・菅原 美樹・神島 滋子・工藤 京子・小坂 美智代・柏倉 大作

■**授業計画・内容**：

第1回	コースガイド／ゴードンのアセスメントフレームを用いた事例学習	第9回	周手術期にある人への援助①（開腹術）
第2回	栄養代謝機能障害のある人への援助	第10回	周手術期にある人への援助②（開心・開胸術）
第3回	循環機能障害のある人への援助	第11回	個人演習：アセスメントと問題の明確化
第4回	呼吸機能障害のある人への援助	第12回	グループ演習：模擬事例のアセスメントと問題の明確化
第5回	脳神経・感覚機能障害のある人への援助	第13回	グループ演習：模擬事例のケアプラン立案
第6回	血液・造血機能障害のある人への援助	第14回	グループ演習：発表
第7回	周手術期における看護援助（術前・術中）	第15回	グループ演習：まとめ
第8回	周手術期における看護援助（術後）		

■**教科書**：雄西智恵美・秋元典子編集：成人看護学 周手術期看護論 第3版 ニューヴェルヒロカワ
鈴木久美・野澤明子・森一恵：看護学テキストシリーズNiCE 慢性期看護 改訂版2版 南江堂

■**参考文献**：

- 池松裕子・山勢善江編：成人看護学 急性期看護論 ニューヴェルヒロカワ
- 鈴木志津枝・藤田佐和編：成人看護学 慢性期看護論 ニューヴェルヒロカワ
- 深谷智恵子他編：ナースングラフィカ1 健康の回復と看護 呼吸・循環機能障害 メディカ出版
- 明石恵子編：ナースングラフィカ2 健康の回復と看護 栄養代謝機能障害 メディカ出版
- 田村綾子編：ナースングラフィカ4 健康の回復と看護 脳神経・感覚機能障害 メディカ出版
- 廣町佐智子編：ナースングラフィカ5 健康の回復と看護 運動機能障害 メディカ出版
- 安酸史子他編：ナースングラフィカ2 成人看護学 セルフケアの再獲得 メディカ出版
- 黒田裕子編：成人看護学 医学書院
- 江川隆子・清水久美子・田島悦子編集：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護データベース 作成過程と臨床への応用 第2版 ニューヴェルヒロカワ
- 任和子編著：実習記録の書き方がわかる！看護過程展開ガイド ヘンダーソン、ゴードン、NANDAの枠組みによる 照林社
- 野川道子編：看護実践に活かす中範囲理論 メジカルフレンド社
- 菅原美樹他監：基礎と臨床につながる疾患別看護過程 学研

■**成績評価基準と方法**：筆記試験（60%）・演習の個人レポート（10%）・演習のグループレポートと発表内容（20%）・出席と学習態度（10%）1/3以上の欠席者は評価対象とはしない。

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②		
定期試験	◎	◎	各授業の理解度	60
演習の個人レポート	◎	◎	看護過程の展開力	10
演習のグループレポートと発表内容	○	◎	グループとしての課題達成度	20
演習・発表時の態度	◎	○	積極的な意見交換	10
出席			2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：形態機能学I・II、病理病態学、疾病治療学概論、疾病治療学A・B、臨床栄養学、看護過程論、症状マネージメント論、成人看護学概論、成人看護技術論、がん看護学、リハビリテーション看護学、透析ケア、重症集中ケア、救急看護学、パリアティブケア

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：看護過程の展開能力が求められる成人看護学臨地実習1には重要な科目です。既習した専門科目と関連させながら展開しますので、積極的な授業参加を期待しています。